

柿本朝臣人麻呂、石見国に在りて死に臨む
時に、自ら傷みて作る歌一首

二二三番

鴨山かもやまの 岩根いはねしまける 我われをかも 知らにと
妹いもが 待まちつつあるらむ

柿本朝臣人麻呂の死ぬる時に、妻依羅娘子の

作る歌二首

二二四番

今日けふ今日けふと 我あが待まつ君きみは 石川いしかはの 貝かひに交まじり
て ありといはずやも

二二五番

ただに逢あはば 逢あひかつましじ 石川いしかはに 雲立くもたち
渡わたれ 見みつつ偲しのはむ